

成績評価

1 成績評価と単位

》「成績評価」の意味

「成績評価」は、履修した科目の学修成果を一定の指標に基づき評価された結果を意味しています。各科目の学修成果を「成績」として客観的に捉えることにより、これまでの取り組みを振り返り、卒業までの履修計画を立てる上で重要な参考になります。

また、教える側の教員は、授業をより効果的に展開するため、「成績評価」を通じて学生の授業に対する理解度や参加度などを把握しています。

大学も「成績評価」の結果などを総合的に分析し、教育の質向上に努めています。

なお、「成績評価」の方法や基準は、授業科目ごとに異なり、シラバスに記載されています。しっかりと把握しておきましょう。

》「単位」の意味

「単位」とは、大学における学修量を測るために数値化した一定の基準のことをいいます。大学の教育課程では、個々の授業科目ごとに設定された「単位」を積み重ねていきます。修得した単位が卒業要件を満たすことによって修了し、学位^{*}を授与されるのです。

学位

p.24「学位の授与」を参照。

2 必要な学修時間

》1単位の授業時間は？

授業科目の単位数は、大学設置基準^{*}で、「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して」単位数を計算することと規定されています。

日本大学は、大学設置基準に基づき制定された「日本大学学則」により、授業科目の単位計算を次のとおり定めています。

種別	1単位に要する授業時間
講義、演習科目	15時間から30時間までの範囲で学部等が定める時間の授業をもって1単位
実験、実習、実技科目	30時間から45時間までの範囲で学部等が定める時間 ^(注1) の授業をもって1単位

(注1) 芸術学部における個人指導による実技の授業については、15時間の授業をもって1単位とする。

※講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上の方法により授業を行う場合については、その組み合わせに応じ、上表に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。

※医学部の授業科目の一部（専門教育科目、臨床実習）は、単位制によらず、時間制を採っている。

単位制は、上の表の単位時間を基礎として、授業科目の種別に応じて必要な時間数に基づく単位を定める制度です。授業科目を履修し、授業科目ごとに定められた試験等に合格すると、単位が認定されます。

》予習・復習も必須

授業科目の単位は、授業時間に加え、学生が行う予

大学設置基準

大学を設置し運営していくに当たり必要な最低の基準を定めた文部科学省令。

習・復習などの授業時間外学修によって構成されています。講義科目を例として説明すると、毎週1時間の授業を15週行って1単位としているため、大学設置基準で規定されている「45時間の学修を必要とする内容」を満たすには、1授業科目に対して2時間の授業時間外の学修が求められるわけです。

■講義の場合

$$\begin{array}{l} \text{授業時間 1時間} \\ + \\ \text{授業時間外の学修} \\ \text{(予習・復習など) 2時間} \end{array} \times 15 \text{週} = 45 \text{時間の学修}$$

〈例〉

予習	授業	復習	× 15週 = 1単位
1時間	1時間	1時間	

つまり、授業時間に加え、予習・復習の時間も単位に含まれると考えられています。授業の理解を助けるために、レポートや課題などが課されることがありますが、この単位の持つ意味（単位の実質化）をよく理解し、真剣に学修に取り組んでください。課題が特に与えられなくても、履修した授業内容を自分のものにするために、予習・復習を習慣づけることが必要です。

なお、大学では、45分を「1時間」と計算しているため、90分間の1授業時間は「2時間」となります。例えば、2単位の講義科目の場合は、1授業時間（90分）の授業を15週行い、30時間確保していることから、当該授業科目の単位数として2単位が与えられる、というように考えます。

Message

日本大学における学修③

日々の講義で振り返りをしよう

経済学部 准教授 大槻 明



大学では、履修科目は好きに選べるものが多く、時間割を自分で決められます。そして、自由な環境だからこそ、主体性が求められます。受け身の姿勢では、専門性が高く、進度も速い大学の授業にはついていけないでしょう。その結果、学修意欲を失いかねません。

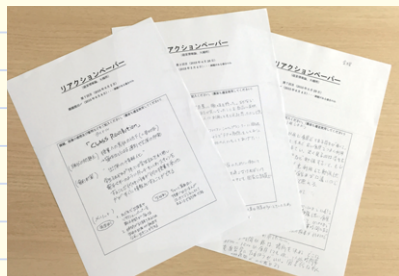
私は、学生が主体的に学べるようになってほしいと、講義にアクティブ・ラーニングを取り入れています。具体的には、授業で学んだことを学生自らの言葉で、リアクションペーパーにアウトプットするという振り返りの時間を設けています。このことにより、学んだことがより脳に定着すると期待されます。また、講義内容を整理する時に、講義中には気づかなかった発見があるかもしれません。

アクティブ・ラーニングは、学修者が能動的に授業に参加する学び方です。授業の振り返りは、1人で手軽にできるので、ぜひ試してみてください。知識の定着にも役立つはずですが、少しの工夫で学びが豊かになることを実感すれば、主体的な気持ちも生まれます。

早い段階で（1年生のうちに）大学卒業後の展望を描くことも、学習意欲を高めるのに役立つと考えられます。目の前の学問と社会とのつながりが見えやすく

なることにより、自分が何のために学ぶのかが明確になり、授業への意欲も向上することが期待できるからです。

そこでお勧めしたいのが、在学中に、卒業後の世界により多く触れることです。本学ではキャリア講演会などのさまざまなイベントが実施されています。また、私が担当する1年次の必修科目「基礎ゼミ」では、卒業生を講師に招き、大学在学中にどのような目的で何を学んだかといったことを語ってもらっています。また、学部の授業でも、IT企業の方によるケーススタディ講演会を実施し、実際にどのような仕事をされているのか、といったことについても話してもらっています。有識者の講演は、どの学部でも行っているのです。積極的に参加してください。自分の学部・学科の卒業生を訪問してもよいでしょう。



授業で学んだことを自らの言葉で振り返るための「リアクションペーパー」。この様式でなく、ノートに書いてもよい。

3 GPA 制度

》GPAとは

日本大学では、厳格な成績評価、綿密な履修指導による卒業生の質の保証などを目的として、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。GPAとは、「成績評価基準」(次ページ参照)に従い、授業ごとの成績評価にそれぞれ定められた係数(Grade Point)を付与して、1単位当たりの平均値(Grade Point Average)を算出する成績評価方法です。

次ページの「GPA計算式」に示されているとおり、GPAは、評価された成績とその科目の単位数が関係づけられて算出されるので、単位制の概念に照らして考えても、履修する授業科目によって求められている“学修の重み”が異なっていることが分かります。

国際的に通用性があるとされるGPAは、海外留学などの際に大学での学びを示す指標となることもあります。

》履修登録→成績→振り返り

自分の学修効果を把握して、主体的に履修計画を立てることが大切です。学期末や年度初めに配布される「成績表」や「成績発表システム」に示されたGPAを検証しましょう。その学期や学年における学修を振り返り、次学期や次年度の履修計画を立てる指標となります。いったん履修登録した科目は、履修中止をしない限りGPAの対象となるので、自らが責任を持って履修登録することが求められます。

このような学修プロセスを通じて、「自主創造」型人材の気風を養うことが重要です。

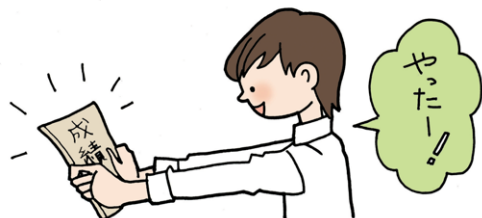
成績評価基準

	素点	評価	係数	内容	GPA
判定	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの	対象
	89～80点	A	3	優れた成績を示したもの	
	79～70点	B	2	妥当と認められたもの	
	69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したもの	
	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの	
無判定	—	E	0	履修登録をしたが成績を示さなかったもの	対象外
	—	P	—	履修登録後、所定の履修中止手続きを取ったもの	
	—	N	—	留学や編入学などにより、修得単位として認定になったもの	

GPA計算式

$$\frac{\left(\frac{4 \times S}{\text{修得単位数}} \right) + \left(\frac{3 \times A}{\text{修得単位数}} \right) + \left(\frac{2 \times B}{\text{修得単位数}} \right) + \left(\frac{1 \times C}{\text{修得単位数}} \right)}{\text{総履修単位数 (S+A+B+C+D+E)}}$$

- ※分母には、P（履修中止科目）およびN（認定科目）は含まず、GPAには算入しない。
- ※GPA算出の対象科目は、学科の課程修了に係る授業科目（卒業論文・卒業研究・卒業制作を含む）である。
- ※「成績証明書」では、合格した授業科目の成績（S、A、B、C）および認定科目（N）のみを表示する。従って、不合格科目（D）や履修登録をしたが成績を示さなかった科目（E）および履修中止手続きをした科目（P）については、「成績証明書」に表示されない。
- ※D評価またはE評価となった科目を再履修しない場合は、GPA算出の際、総履修単位数として分母にそのまま残るので、注意が必要。なお、D評価またはE評価となった科目を再履修した場合、累積のGPA算出の際には、最後の履修による成績および単位数のみを算入する。
- ※GPA制度の詳細は、学部等で配布される『学部要覧』などを参照のこと。



GPAの計算は、成績評価とその修得単位数が関係しています。個々の授業科目の単位は、学部等のカリキュラム・ポリシーに基づき必要な学修時間等を勘案して設定されており、いわゆる“学修の重み”を表しています。また、GPAの値を求める際、分母に不合格となった科目（D評価）だけでなく履修登録をしたものの成績を示さなかった科目（E評価）の単位数も含むため、しっかりとした履修計画が必要であることが分かります。

例えば、下表に掲げた4人の学生の履修状況を見てください。4人の履修状況を比較すると、一見、CやDの評価を得ていないXさんの成績（B・A・A）が良いように見えますが、GPAの値で比較すると、4人の学生のうち最も優れているのは、Wさん（2.75）

です。また、2科目でS評価を得ているにもかかわらず、4単位の1科目を途中で受講しなくなってしまったためにE評価となり、最も低いGPAの値となったZさん（2.00）のようなケースもあります。

つまり、GPAは、授業科目によって異なる単位数が成績の重みづけとして反映された評価であること、また、履修登録をしたものの途中で受けなくなったり（所定の手続きにより履修中止した科目は除く）、不合格になったりした科目も含まれた評価であることを認識しておく必要があります。

GPA制度では、計画的な履修と着実な学修が求められます。GPAの値は、大学生としての皆さんの行動特性を表すものでもあるのです。（学務部学務課）

	〇〇学 [4単位]	〇〇論 [2単位]	〇〇語I [2単位]	GPA
Wさん	S	C	B	$\frac{16+2+4}{8}$
	4×4 単位=16	1×2 単位=2	2×2 単位=4	2.75
Xさん	B	A	A	$\frac{8+6+6}{8}$
	2×4 単位=8	3×2 単位=6	3×2 単位=6	2.50
Yさん	A	D	S	$\frac{12+0+8}{8}$
	3×4 単位=12	0×2 単位=0	4×2 単位=8	2.50
Zさん	E	S	S	$\frac{0+8+8}{8}$
	0×4 単位=0	4×2 単位=8	4×2 単位=8	2.00

※評価ごとの係数は、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0、E=0

参考／半田智久2011、『成績評価の厳正化とGPA活用の深化』地域科学研究会

4 授業評価

》授業評価の趣旨

日本大学では、「学生による授業評価」が、大学全体で組織的に行う教育の改革・改善活動の一環として行われています。学生の皆さんは、授業ごとに実施される授業改善アンケート調査に参加することが大切です。大学は、調査の結果を分析して、授業の問題点・反省すべき点を洗い出し、授業の改善や学修効果の向上を図るよう努めています。

さらに、「学生による授業評価」では「きちんと出席したか」など、受講生自身の授業に対する態度も合わせて問うことにしています。

》学生による授業評価の意味

「学生による授業評価」のアンケートには、決められた項目だけではなく、授業の進め方や教員の授業方法について自由に記述する欄も設けられています。大学では、学生の皆さんの率直な意見や日ごろ感じていることなどに関する記述内容を、アンケート結果とともに教員に届けています。教員は、これを基に、学生の学修効果の向上に向けて、授業の改革・改善を図ります。

つまり、学生の皆さんの声によって、授業は改善されていきます。大学の授業の内容や進め方は教員だけの考えで決められるのではなく、そこに**学生の意見が反映され、授業の改革・改善が行われていく**わけです。この点に「学生による授業評価」の意味があるのです。